

内容は、授業用スライド(穴埋めタイプ)と対応しています

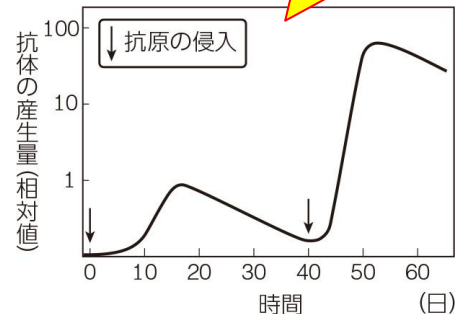
34 免疫記憶と免疫寛容

教科書と同じ図を使用しています

A 同じ感染症にかかりにくくなるのはなぜだろうか？

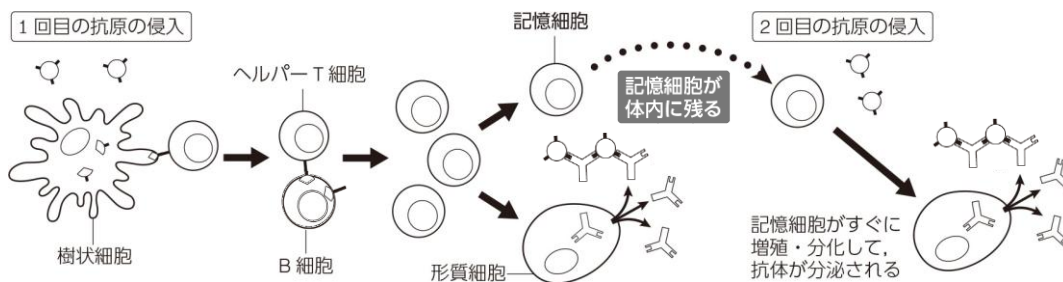
[⁴⁷] …抗原の侵入によって活性化された T 細胞や B 細胞の一部が

[⁴⁸] となって体内に残ることにより、再び同じ抗原が体内に侵入すると、強い免疫反応が速やかに起こること。



免疫記憶のしくみ

- ・ [⁴⁹] …1 回目の抗原の侵入に対して起こる免疫反応。
- ・ [⁵⁰] …同じ抗原の 2 回目の侵入によって、[⁵¹] がすぐに増殖・分化することによって起こる、速やかで強い免疫反応。同じ感染症に対する 2 度目の感染では、潜伏期間中に病原体の排除が始まり、発病しなかったり、症状が軽くすんだりする。



B なぜ免疫は自分のからだを攻撃しないのだろうか？

1 つのリンパ球は、1 種類の抗原しか認識できない。

→ 認識する相手が異なる多様なリンパ球が、あらかじめ体内に存在する。

→ 自己の細胞や成分を認識するリンパ球は排除されたり、はたらきを抑えられたりすることで、自分自身に対して免疫がはたらかない状態がつくられる。この状態を

[⁵²] という。

